

HEART

3学年だより
第19号
H28・7・19

感動と、クラスの絆と、学年のパワーを響かせました！ ～最後の校内合唱祭～

7月15日(金)、聖和学園サールナートホールで校内合唱祭が行われました。3年生にとっては中学校生活最後の合唱祭。この日のためにどのクラスも、リーダーを中心に練習や話し合いを重ね、自分たちの合唱を創り上げてきました。7日(木)の学年リハーサル後は各クラス一段と練習に気合が入り、細かい表現や表情まで話し合い、合唱に磨きをかけようと努力する姿が見られました。そして迎えた合唱祭当日。朝の学校での練習、昼休みのステージ練習で最後の仕上げをした後、2組、3組、1組の順に演奏をしました。どのクラスの合唱も気迫のこもった、胸に迫ってくる歌声で、クラスの絆と団結を感じさせる、3年生にふさわしい演奏でした。審査員の先生方からは「学校全体を通して完成度の高い合唱で、歌う意欲が満ちあふれている。めいめいが自分たちのクラスに誇りを持って、堂々と演奏していた。女声は素直で柔らかい発声、男声は響きのある厚みのある声と、声作りがしっかりしていて、音楽の授業にきちんと取り組んでいる様子が伝わってきた。3年生は一人一人の思いがとても伝わってくる合唱で、指揮者、伴奏者、歌い手が一体となって音楽に集中していた。音を通した、クラスの中の強い絆を感じた。どのクラスも自由曲にとっても力が入っていたが、課題曲の『大地讃頌』も男声の発声などに気をつければ、混声四部合唱としてさらに完成されたものになるだろう。」という講評をいただきました。生徒たちは今回の合唱祭で会場中に感動を届け、後輩たちにも立派な手本を示すことができたと思います。今後も、一つ一つの行事に「最後の」という言葉がつきます。最高学年にふさわしい取組をし、後輩をリードし、学年の絆を深めていってほしいと思います。保護者の皆様には、校内合唱祭にあたってさまざまな御支援をいただき、また当日は多数御来場いただき、ありがとうございました。



校内合唱祭実行委員長 I・M君
の開会の言葉

☆最優秀賞 2組「信じる」

☆指揮者賞 O・R (2組)

☆伴奏者賞 S・M (3組)

☆「絆が深められたで賞」かしわ・けやき学級



開会の言葉

校内合唱祭実行委員長 I・M

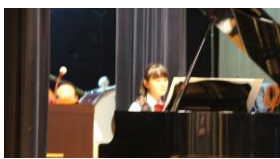
毎日クラスの仲間と取り組んだ合唱練習。パートがまとまらなかったり、思うように歌えなかったり、クラス内で対立が起きたり。今日までにそれぞれのクラスで、それぞれのドラマがありました。悩んだこと、喧嘩したこと、時に涙を流したこともあったと思います。しかし、自分たちで意見を出し合い、本気で話し合い、合唱を良くしていこうとするなかで、クラスの団結がより一層深まったのではないのでしょうか。今日はいよいよ本番。校内合唱祭です。学年リハーサルを経て、それぞれのクラスが課題の改善に努め、より良い合唱を目指して頑張ってきました。1年生の皆さんは初めての合唱祭です。緊張すると思いますが、1年生らしい、はつらつとした元気な歌声をホールいっぱい響かせてください。2年生の皆さんはトップバッターです。昨年の経験を生かし、中堅学年らしい合唱を頑張ってください。そして3年生の皆さん。中学校生活最後の合唱祭です。今までの練習を信じ、先生方の言葉を信じ、何よりも自分達の絆を信じて、会場の皆さんに自分達の歌と想いを届けましょう。自分達の力を、心を、歌に込め、先輩方を超える合唱をこの会場いっぱいに響かせましょう。会場を提供してくださった聖和学園高等学校の先生方、今まで御指導してくださった先生方、支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございます。今日の合唱祭が会場のすべての人の心にいつまでも残る合唱祭になることを願って、開会の言葉とします。

2組 自由曲「信じる」

☆課題曲指揮 K・K ☆課題曲伴奏 K・N
 ☆自由曲指揮 O・R ☆自由曲伴奏 S・K

☆2組学級紹介文

私達、3年2組の自由曲は「信じる」です。「信じる」は、意味は単純だけれど、奥が深い曲です。この曲は、テンポが変わりやすいので、練習でもとても苦労しました。また、課題曲では、音程が合わなかったり、声量がなくてとても苦労しました。でも、練習を重ね、苦労を乗り越え、クラスでの団結力を深めてきました。今日は、自分たちのしてきた練習を信じ、仲間を信じ、歌の力を信じて最高の合唱をします。私たちの合唱を、どうぞお聴きください。



信じる
 作詞 谷川 俊太郎
 作曲 松下 耕

笑うときには大口あけて
 おこるときには本気でおこる
 自分にうそがつかない私
 そんな私を私は信じる
 信じることに理由はいらぬ
 地雷をふんで
 足をなくした子どもの写真
 目をそらさずに
 黙って涙を流したあなた
 そんなあなたを私は信じる
 信じることでよみがえるいのち

葉木の露がきらめく朝に
 何をみつめる小鹿のひとみ
 すべてのものが日々新しい
 そんな世界を私は信じる
 信じることは生きるみなもと
 l a l a l a . .

私は信じる

3組 自由曲「虹」

☆課題曲指揮 Y・A ☆課題曲伴奏 S・M
 ☆自由曲指揮 S・S ☆自由曲伴奏 S・M

☆3組学級紹介文

私達3年3組の自由曲は「虹」です。「虹」という曲は、温かくもあり、切なくもあり、それでも空には虹があるという意味を持った曲です。練習では、歌詞の意味を理解し、強弱を付けて歌うことが課題になっていました。クラス内でのトラブルや困難を乗り越えて、私達はここまで来ることができました。今のクラスのみんなに出会えたことに感謝をし、支えてくれた人、この会場で私達の合唱を聴いている人の心に「虹」をかけられるような合唱をしたいとします。どうぞお聴きください。





虹

作詞 森山 直太郎・御徒町 凧
 作曲 森山 直太郎・御徒町 凧
 広がる空に 僕は今 思い馳せ
 肌の温もりと 汚れたスニーカー
 ただ雲は流れ

きらめく日々に 君はまた 指を立て
 波のさざめきと うらぶれた言葉
 遠い空を探した

喜びと悲しみの間に 束の間という時があり
 色のない世界
 不確かな物を壊れないように隠し持つてる

僕らの出会いを 誰かが別れと呼んだ
 雨上がりの坂道
 僕らの別れを 誰かが出会いと呼んだ
 時は過ぎいつか
 知らない街で 君のことを想っている

風になった日々の空白を
 空々しい歌に乗せて
 未来を目指した 旅人は笑う
 アスファルトの芽吹く ヒナゲシのように

僕らの喜びを 誰かが悲しみと呼んだ
 風に揺れるブランコ

僕らの悲しみを 誰かが喜びと呼んだ
 明日への続く不安げな空に
 色鮮やかな虹が 架かっている

僕らの出会いを 誰かが別れと呼んでも
 徒に時は流れていった
 君と僕に光を残して

1組 自由曲「証」

☆課題曲指揮 I・K ☆課題曲伴奏 S・R
 ☆自由曲指揮 Y・T ☆自由曲伴奏 S・K



☆1組学級紹介文

私たち3年1組が歌う自由曲は「証」です。「証」は、大切な友との別れ、悲しみがメロディーににじみ出ています。中学校生活最後の年を大切な友と大切に過ごしていこうという気持ちをもって歌いたと思います。そして、3年1組の絆の証を、今までの練習の努力の証を、皆さんにお聴かせしたいと思います。



証

作詞 山村 隆太
 作曲 阪井 一生

前を向きなよ
 振り返ってちゃ 上手く歩けない
 遠ざかる君に 手を振るのがやつとで
 声に出したら 引き止めそうさ 心で呟く
 僕は僕の夢へと 君は君の夢を
 あたり前の温もり 失くして
 初めて気づく
 寂しさ噛みしめて 歩み出す勇気抱いて
 溢れ出す涙が 君を遮るまえに
 せめて笑顔で またいつか
 傷つけ合っては 何度も許しあえたこと
 代わりなき僕らの証になるだろう

我低だつて眩されたつて 願ひ続けてよ
 その声は届くから 君が君でいれば
 僕がもしも 夢にやぶれて 諦めたなら
 遠くで叱つてよ あの時のようにね
 君の指差すその未来に 希望があるはずさ
 誰にも決められはしないよ
 一人で抱え込んで
 生きる意味を問うときは
 そつと思ひ出して あの日の僕らを

またねつて言葉の儚さ 叶わない約束
 いくつ交わしても慣れない
 なのに追憶の破片を 数き詰めたノートに
 君の居ないページはない
 溢れ出す涙 拭う頃 君はもう見えない
 想う言葉は ありがとう
 傷つけ合っては 何度も笑い合えたこと
 絆を胸に秘め 僕も歩き出す



かしわ・けやき学級のアトラクションでは「風の通り道」のハンドベル演奏、キーボードとボランティア有志の歌による「カントリーロード」を披露しました。

かしわ・けやき学級＋ボランティア有志 「ゆうこリンと愉快的仲間たち」



閉会行事

閉会行事ではどのクラスも、仲間と全力で歌い切ったすがすがしさにあふれていました。講評、結果発表、表彰の後、最後にK・K君（2組）の指揮、K・Nん（2組）の伴奏で「仲間とともに」を全員で合唱して、生徒たちにとって中学校最後の合唱祭は幕を閉じました。



3年1組



3年3組



3年2組

素晴らしい仲間と歌えた3年間の合唱。いつまでも胸に。